

米国 太平洋岸北西部のブルーベリーは少量で小粒

FreshPlaza 2023年8月9日

オレゴンベリーパッキング社のジェフ・マレンスキー氏は、「オレゴン州のブルーベリー出荷シーズンのタイミングは、予想通り平年並みである」と言う(以下「」は同氏の発言)。収穫は6月下旬に始まり、出荷期間は9月の一部にかかると予想される。「しかし、今年の出荷量は平年並みではなく、我々の予想をはるかに下回っている。」5月の受粉期間中、非常に暑く、受粉条件は最適ではなかった。そのため、着果数が少なくなり、果実のサイズが小さくなった。この傾向は、太平洋岸北西部のオレゴン州、ワシントン州及びブリティッシュコロンビア州(カナダ)に共通のようである。

「品質の観点からは、今年は昨年に比べてはるかに優れている。太平洋岸北西部地域は、その全体が5月10日以降非常に乾燥している。これにより、果実の糖度が非常に高くなっている。「今年のブルーベリーは大変甘く、風味も極めて良い。我が家の子供たちはブルーベリーが好きで、いつも食べているので、今年は昨年との違いを教えることができる。」

加工品と生鮮品 オレゴンベリーパッキング社は、オレゴン州産ブルーベリーの栽培、梱包、加工を行う業者である。全体的に生産量が少ないため、今年は加工に仕向ける量が少ない。「入荷量が少ない。数量の減少によって加工品市場の価格が強含むと予想していたが、昨年からの在庫があるためすぐには数量不足になっていない。」

生鮮品については、同社のブルーベリーは国内市場で流通しているだけでなく、アジアにも輸出されている。「需要は良好で、国内外の取引先からはより大粒で、より多くの出荷量を求められている。需要は間違いなく高品質の果実の供給を上回っている。」

全体として、これは難しいシーズンである。生産者にとっては出荷量が少ないため困難であり、同時に梱包業者と加工業者は受け入れる果実が少なく、消費者にとっても入手しにくくなっている。

執筆者: マリーケ・ヘムス

米国 ニュージーランド産有機キウイを菌汚染で自主回収

FreshFruitPortal 2023年8月9日

デビッドオッペンハイマー社(David Oppenheimer and Co.)は、リステリア菌による汚染の可能性があるため、以下に説明する有機グリーンキウイフルーツのすべての1ポンド入りグラムシェルを自主回収している。

回収される有機グリーンキウイはニュージーランドで栽培され、北米に輸出され、現地でゼスプリのロゴの付いたプラスチック製グラムシェル容器(1ポンド入り)に再梱包された。(商品コード番号等の詳細は省略)

自主回収の対象となるグラムシェル容器入り有機グリーンキウイフルーツは、2023年6月14日から2023年7月7日の間に出荷され、フロリダ、ジョージア、イリノイ、インディアナ、ケンタッキー、ミシガン、ノースカロライナ、ニューヨーク、オハイオ、ペンシルベニア、テネシー、テキサス、バージニア、ウィスコンシンの小売店で販売された。他の州で販売されているゼスプリ有機グリーンキウイはこの回収の対象にならない。また、2023年8月7日以降に出荷されたステッカーの色が白いゼスプリ有機グリーンキウイは回収の対象ではない。

リステリア菌(*Listeria monocytogenes*)は、幼児、虚弱者または高齢者、その他免疫系が弱まっている人に深刻な、時には致命的な感染症を引き起こす可能性がある。健康な人は、高熱、激しい頭痛、こわばり、吐き気、腹痛、下痢などの短期的な症状を呈するだけだが、妊婦には流産や死産を引き起こす可能性がある。

自主回収は、7月7日にケンタッキー州公衆衛生局が行った定期サンプリングの結果であった。同社は8月3日に通知を受けて以来、ゼスプリと協力して流通経路を遡り、2つの栽培者ロットまで特定し、米国食品医薬品局と協力してまだ調査を継続しているため、これらのロットからの出荷を直ちに停止した。現在までに発症は報告されていない。当該製品を持っている者は廃棄するよう求められている。(一部編集・省略しました。)